

病防第29号  
平成30年6月14日

各関係機関の長 様  
(農政担当)

岐阜県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表したので、指導上の参考にしてください。

記

平成30年度病害虫発生予察注意報第2号  
(モモ せん孔細菌病)

---

平成30年度病害虫発生予察注意報第2号

平成30年6月14日  
岐 阜 県

作物名 モモ

病害虫名 せん孔細菌病

- 1 発生地域 飛騨および東濃地域
- 2 発生時期 6月中旬以降
- 3 発生程度 多い

#### 4 予報の根拠

- (1) 飛騨地域の定点調査ほ場3地点における5月下旬の春型枝病斑率は0.9%と、平年(0.1%)と比較して多かった。
- (2) 6月上旬の調査において、飛騨及び東濃地域の調査ほ場10地点のうち7地点で発生が認められた。また、発生地点における発病葉率は、5月下旬調査時と比較して増加しており、今後、感染が拡大すると考えられる(表)。
- (3) 前年秋期の台風の強風等により病原菌が広範囲に飛散及び感染しており、越冬伝染源が多かったと考えられる。
- (4) 一部の果樹園では、幼果にも初期病斑が観察されている。
- (5) 名古屋地方気象台の1か月予報(6月7日発表)では、降水量が平年並~多いと予想されており、さらなる感染の拡大が懸念される。

#### 5 防除上の注意事項

- (1) 発病枝(春型枝病斑)や周辺の新梢葉の発病部は、伝染源となるため見つけ次第除去する。
- (2) 発病果は二次伝染源となるので、除去を徹底する。多発ほ場では仕上げ摘果を丁寧に行い、薬剤防除をしたうえで速やかに袋かけを行う。
- (3) 耐性菌の増加を抑制するため、同一薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤を交互に使用する。なお、農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。  
([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm) 農林水産消費安全技術センター)

- (4) 病原菌は葉や果実の自然開口部（気孔など）、モモハモグリガや風雨等による傷口から侵入する。今後の発病を抑制するため防風ネット等による防風対策や害虫を対象とした薬剤防除をあわせて行う。

表 モモせん孔細菌病による発病葉率の推移 (H30)

地点名	発病葉率 (%)	
	5月下旬	6月上旬
高山市 1	0.4	0.44
高山市 2	0.5	2.0
高山市 3	0.1	1.0
高山市 4	2.9	16.8
高山市 5	0.0	0.0
高山市 6	0.0	0.0
飛騨市	0.0	0.0
恵那市 1	5.0	20.0
恵那市 2	3.5	7.0
中津川市	1.5	5.0



(a) 葉の初期病斑



(b) 果実の初期病斑

図 モモせん孔細菌病の病徴